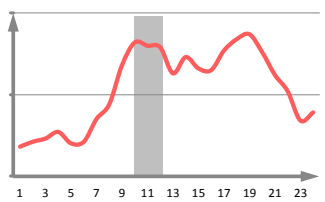


重点アクション



- ✔ 室温は19℃を目安に
- ✔ 明るすぎる所はないか、照度の見直しを徹底
- ✔ 電力の「見える化」で節電効果を共有しながら、みんなで実践

冬の電力はピークが2回  
特に、10時～12時の節電を!




節電・省エネメニュー		効果を高める取組など	削減効果
空調	室温は19℃を目安に 温度計による室温の把握と調整	○室内のCO2濃度の基準範囲内(1,000ppm以下)で、外気導入量の適正化。(①オフィスビル・小売店 ②製造業) ○暖気を逃がさないよう、断熱フィルム、夕方以降はブラインドや厚手のカーテン等を活用する。	① 4~12% ② 34% 1%
照明	改正JISに準じた照度の設定 (例:事務室500ルクス程度)	○照度を確認し、作業に適した照度を確保する。 ○照明を間引きする。 ○照明スイッチに点灯範囲を表示、採光の利用。 ○使用していないエリアは消灯する。 ○昼休み等は完全消灯を心掛ける。	11~13% 2~3%
	高効率照明ランプの採用	○白熱灯や従来型蛍光灯を高効率蛍光灯やLED照明に交換 (①白熱灯60W⇒LED、②従来型蛍光灯⇒LED)	① 85% ② 40%
OA機器	省エネモード等の徹底	○パソコンやプリンタ等の省エネモード設定 ○離席時、退社時の電源OFFの徹底 ○パソコンのディスプレイの明るさ調節	+α
生産設備等	ピーク電力の抑制	○自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。 ○温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。 ○生産用動力の起動を節電時間帯の前にシフトする。 ○更新および新設時にはトップランナー(最も省エネ性能が優れている機器)機器の採用。	
その他	デマンド監視装置の導入など	○ピーク時の最大使用電力を抑制し、契約kWを下げることで電気代削減につなげる。 ○機器の起動順序の見直し。	
	節電啓発	○「省エネパートナー」に登録し、事業所としての節電目標と具体的アクションを定めるとともに、社内の管理体制を確立し、従業員への周知徹底を図る。 ○店舗、事業所を「あったかシェアスポット」として登録する。 ○従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。	+α


※ 経済産業省「冬期の節電メニュー」、東京都「温暖化対策報告書作成ハンドブック」等を基に長野県が作成。


※ 各々の建物の利用状況や設備内容によって効果は異なる場合があります。


# 事業者別の節電メニュー


下記の「節電の取組例」を参考に、それぞれの事業者において、目指した節電目標に向かって無理なく実施できるものを実践して頂き、ご協力をお願い致します。

 オフィスビルの節電メニュー	建物全体に対する 節電効果
● 執務エリアの照明を半分程度間引き。	8%
● 設定温度を19℃にするなど、適切な空調利用を徹底する。	4%
合計	12%

 ドラッグストア（御・小売店）の節電メニュー	建物全体に対する 節電効果
● 店舗の照明を1/4程度間引きする。(=▲10%×1/2)	5%
● 空調の設定温度を19℃に設定する。	8%
合計	13%

 食品スーパーの節電メニュー	建物全体に対する 節電効果
● 店舗の照明を1/4程度間引きする。(=▲10%×1/2)	5%
● 業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄をする。	6%
合計	11%

 シティホテルの節電メニュー	建物全体に対する 節電効果
● 客室以外の照明を半分程度間引きする。	14%
合計	14%

 学校（小・中・高）の節電メニュー	建物全体に対する 節電効果
● 教室、職員室、廊下等の照明を3割程度間引きする。(=▲15%×3/4)	11%
合計	11%